

西園寺公望 さいおんじこうぼう 政治家。嘉永二年七月二十一日京都生れ、昭和十五年十一月二十四日歿（二公九一四〇）。字子道、幼名美丸、通稱望一郎。號不讀、不讀書主人、産茅漁人、得民、松琴、松琴齋、楊柳軒、竹軒、竹軒居士、竹軒狂客、藤公望、藤原公望、西園、西園寺生、陶庵、陶庵主人等。徳大寺公純の次男、西園寺節季の養子。慶應二年新政府參與、明治四年フランス留學。十二年歸國し翌年明治法律學校創立、また中江兆氏等と『東洋自由新聞』創刊と勅命で退社。十五年伊藤博文の憲法調査渡歐に隨行。のち實動尚總裁、貴族院副議長、樞密院判官、文相、樞密院議長、と憲政友會總裁等歴任。二十九年第一次四十回年第一次内閣組織。大正八年パリ講和會議の首席全權、翌年公爵。國葬。

著書『歐洲奇蹟珍事のはきりおせ』(竹軒居士名、編、明治二十年十月廿陸社)、『陶庵公清話』(原田熊雄編、昭和十八年七月二十日岩波書店)、『陶庵隨筆』(國木田獨步編、昭和十八年十一月一日新潮社)『新潮文庫』、『西園寺公望公傳』(小泉策太郎筆記・木村毅編、昭和二十四年九月二十日大日本雄辯會講談社)等。



文獻、白柳秀湖著『西園寺公望公傳』(昭和四年六月十五日日本評論社)、竹越與二郎著『陶庵公』(昭和五年二月四日、普及版『陶庵公』(西園寺公望公傳』八年八月二十一日叢文閣)、田中首太郎著『西園寺公望公傳』(昭和七年六月二十一日改造社)『偉人傳全集』)、木村毅著『西園寺公望』(昭和十年七月十六日千倉書房)、史藤徳馨著『陶庵

素描」(昭和十一年七月十日新共社)、同編「陶庵八景譜」(昭和十一年七月十日)、「白鷺美書院」、同「西園寺公望」(昭和十二年二月一日)、「白揚社」人物再検討叢書」(同)、「西園公談話」(昭和十二年七月五日)、「育生社」、田中寅次郎著「西園寺公望」(昭和十五年十一月二十四日)、「改造社」改造文庫」(北野篤著「人間西園寺公望」(昭和十六年四月二十四日)、「大寫書院」、内山夢之進編「西園寺公望追憶」(昭和十七年六月)、「中央大學」、竹越與二郎著「西園寺公望」(昭和二十一年十一月)、「白鳳文書林」、原田熊雄述「西園寺公望」(昭和二十一年七月)、「十五年六月二十日」(二十七年八月十五日)、「別卷」(二十一年七月)、「二十日岩波書店」、豊田樸著「最後の元老」西園寺公望」全二冊(上、下、昭和五十七年四月)、「千五台新潮社」新潮書房」(「文芸作話」、再刊)上巻、下巻、二十六年十一月)、「二十五日」新潮文庫」(等。